

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	健康づくり講演会			事業開始年度	H14	1
担当課	保健福祉課	担当係	健康管理センター保健推進係	担当者	杉山 絹子	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☒ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	2	住み慣れた地域で安心して暮らせる支えあいのまちづくり
	政策	3	健康で安心して暮らせる保健医療のまちをつくる
	施策	①	主体的に取り組む健康づくりの推進
	具体的な施策	3	健康づくり啓発活動促進事業
めざす目的成果		健康づくりに関する知識を住民に普及することで、地域での健康意識の向上及び健康づくりのための保健行動のきっかけづくりとする。また、健康推進部連絡会役員の学習の機会となることを目指す。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民	
	手段・手法	・講演会	
	内容	・健康推進部連絡会の事業の一環として、広尾町と共催し健康づくりに関する講演会等を開催	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円			平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費		0		50		50		(報償費)	
			2		2		2		・講師謝金:50	
									(需要費)	
									・食糧費:2	
		事業費合計		2		52		52		
人件費	常勤職員(延)	5人日	157	5人日	165	5人日	158			
	会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0			
	人件費合計	157		165		158				
	総事業費	159		217		210		令和2年度財源内訳の積算		
財源内訳	国道支出金									
	地方債									
	その他特定財源									
	一般財源	159		217		210				
	財源合計	159		217		210				
R元年度実施内容		令和元年12月19日 19:00～20:30 ・テーマ:腰痛に悩む方々へ～腰 ・講師:帯広整形外科 青木 勇貴 理学療法士 ・参加者数58名								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
講演会の参加者数		参加人数により、健康に関する関心度を高めることが可能である。		人	53 (30)	58 (30)	— (30)		年度 ()	
					 ()	 ()	— ()		年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
講演会の参加者数		参加人数により、健康に関する関心度を高めることが可能である。		人	53 (30)	58 (30)	— (30)		年度 ()	
					 ()	 ()	— ()		年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☒ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☒ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	○ 見直す余地がありすぐに実施 ● 見直す余地あるが時間が必要 ○ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☒ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 町民が主体的に健康づくりに取り組むための普及啓発の一環として、事業は必要と判断する。 また、健康推進部連絡会と共催することにより、健康推進部としての役割を認識し、町民及び地域全体の健康意識の向上につながると考える。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止		
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額	● 現状のまま	○ 減額
		労働量	○ 拡大	● 現状のまま	○ 縮小
今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止		
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額	● 現状のまま	○ 減額
		労働量	○ 拡大	● 現状のまま	○ 縮小
総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	広尾つつじまつり			事業開始年度	S54	2
担当課	水産商工観光課	担当係	商工観光係	担当者	三上 昌樹	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☒ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
	政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
	施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
	具体的な施策	5	イベントの充実
めざす目的成果	広尾町の花であるつつじが咲き誇る大丸山においてつつじまつりを開催し、観光客の誘致を促進し、地域経済の振興を図る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民、町外者	
	手段・手法	・防災無線、広報誌、ホームページ、チラシ新聞折り込みで周知	
	内容	・特産品、飲食物の販売 ・参加型アトラクションの実施	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	宣伝広告費		106		198		令和2年度 中止	
		施設費		337		344			
		事業費合計		708		1,201			
		事務費		91		96			
		予備費							
		事業費合計		1,242		1,839			
	人件費	常勤職員(延)		30 人日	941	25 人日	825	人日	0
		会計年度任用職員(延)		24 時間	29	37 時間	45	時間	0
		人件費合計		970		870		0	
	総事業費		2,212		2,709		0		令和2年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		2,212		2,709		0		
	財源合計		2,212		2,709		0		
R元年度実施内容		食い倒れ市場、さけます千人鍋、第40回記念イベント事業(オクラホマトークショー)、つつじ植樹祭、公募イベント(広尾ジャズスクール、広尾バトンメイツ)、大道芸・ダイヤモンドアート体験コーナー、玉入れ大会、広尾ししゃもんピック、子ども駄菓子まき、ふわふわドーム等							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
来場者数		来場者が多いほど、観光客の誘致が促進される。		人	3,000 (3,000)	4,500 (3,000)	— ()		年度 ()
売上金額		売上金額が多いほど、町内への経済に効果がある。		円	740,350 (1,500,000)	767,730 (1,000,000)	— ()		年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
					 ()	 ()	— ()		年度 ()
					 ()	 ()	— ()		年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☒ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☒ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☒ 見直す余地あるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☒ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 5月下旬の日曜日の開催に変更したが、6月第1日曜日の時と比較し出店者の売上が半減しているため、何らかの工夫が必要及び飲食の出店について、取りまとめ・運営・後片付けまで出店者等による自主運営が必要		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☐ 存続 ☒ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☒ 別途判断
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		行政の関わる範囲を縮小し、民間団体主体の運営となるよう求めていくこと。
主管者会議評価	事業の方向性		☐ 存続 ☒ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☒ 別途判断
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小
	総合コメント		

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	十勝港まつり			事業開始年度	S30	3
担当課	水産商工観光課	担当係	商工観光係	担当者	三上 昌樹	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☒ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ		基本目標	1	豊かな自然を生かした活力ある産業のまちづくり
		政策	2	各産業と連携した活力ある商工・観光の振興
		施策	②	地域の素材を生かした観光、サンタランドの推進
		具体的な施策	5	イベントの充実
めざす目的成果		十勝港を舞台に地域の特性を生かした観光イベントとして「十勝港まつり」を開催し、観光事業の健全な発展を図り、本町の観光振興に寄与する。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民、町外者		
	手段・手法	・防災無線、広報誌、ホームページ、チラシ新聞折り込みで周知		
	内容	・十勝港海上花火大会: 特産品・飲食物の販売、ステージイベント実施、巡視船とかち体験航海、港パネル展等、海上花火大会 ・ふるさと夏まつり: 飲食物の販売、ステージイベント実施、仮装盆踊り大会		

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳			
コスト	事業費	運営管理費		4,985		4,746		中止			
		海上花火大会負担金		4,576		3,900					
		仮装盆踊り大会		1,175		1,100					
		ステージイベント		2,281		1,986					
		巡視船体験航海等		146		0					
		予備費									
		事業費合計		13,163		11,732				0	
	人件費	常勤職員(延)		148 人日	4,639	102 人日	3,364	人日	0		
		会計年度任用職員(延)		163 時間	196	146 時間	176	時間	0		
		人件費合計		4,835		3,540		0			
総事業費		17,998		15,272		0		令和2年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		17,998		15,272		0				
	財源合計		17,998		15,272		0				
R元年度実施内容		【海上花火大会】ポートバザール、ステージイベント、YOSAKOIソーラン演舞、港パネル展、JAF子ども安全免許証発行イベント、高速道路利用促進PRイベント、海上自衛隊掃海母艦「うらが」・陸上自衛隊車両展示一般公開、巡視船「とかち」一般公開、海上花火大会【ふるさと夏まつり】夏まつりバザール、ステージイベント、子ども駄菓子まき、サンクラブ抽選会、仮装盆踊り大会									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績		R1実績		R2(目標)		目標年度
					H30(目標)		R1(目標)				最終目標値
来場者数		来場者が多いほど、観光客の誘致が促進される。		人	18,000		19,000		—		年度
					(25,000)		(25,000)		()		()
売上金額		売上金額が多いほど、町内への経済に効果がある。		円	6,195,110		5,678,910		—		年度
					(8,000,000)		(8,000,000)		()		()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績		R1実績		R2(目標)		目標年度
					H30(目標)		R1(目標)				最終目標値
									—		年度
					()		()		()		()
									—		年度
					()		()		()		()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☒ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☒ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☒ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☒ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☒ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 ①十勝港海上花火大会用駐車場の草刈作業を委託済(R2予算措置済み) ②飲食の出店取りまとめ・運営・後片付けまで出店者等による自主運営が必要		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)		行政の関わる範囲を縮小できるよう、作業の効率化や出店者等との協議を進めること。		
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☐ 現状のまま ☒ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	生涯学習まちづくりセミナー			事業開始年度		4
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☒ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2	生涯を学びゆとりを育む
	施策	①	地域社会に還元する生涯学習の推進
	具体的な施策	1	生涯学習推進協議会などと連携した生涯学習の推進
めざす目的成果	生涯学習の啓発と住民参加型「協働のまちづくり」の意識の高揚を図る。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全町民	
	手段・手法	生涯学習やまちづくりに関する講師の招へい	
	内容	生涯学習やまちづくりに関する講演会の開催	

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	75		0		75	[報償費] 生涯学習セミナー講師謝金 75 [需用費] 食糧費 5
		需用費	5		20		5	
		事業費合計	80		20		80	
	人件費	常勤職員(延)	5人日	157	5人日	165	5人日	158
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計		157		165		158
		総事業費		237		185		238
	財源内訳	国道支出金						[その他特定財源] 生涯学習推進協議会 20
地方債								
その他特定財源					20			
一般財源			237		165		238	
財源合計			237		185		238	
R元年度 実施内容		株式会社ゆめかな代表取締役 石川尚子氏を講師にお迎えし、「広尾っ子の自己肯定感をはぐくむために」と題した講演を行った。 日時:令和2年1月24日(金) 来場者数:68名						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
来場者数	来場者数が多いほど、生涯学 習への意識高揚の効果が期待 できる。	人	63 (ー)	68 (100)	ー (100)		年度 ()	
					ー		年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
					ー		年度 ()	
					ー		年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☒ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 現時点で、生涯学習・まちづくり・ボランティアといったテーマを集約したセミナーとなっており、これに代わるものは無い。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)		コロナ対策として換気が行えるよう、暖かい時期に開催することを検討してはどうか。		
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	高齢者学習講座「ひろおすまいる元気塾」			事業開始年度		5
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
めざす目的成果	具体的な施策	3 高齢者教育への支援
	高齢者を対象に学習機会の提供などを続けることで、個人の人生が豊かで充実したものになると同時に、その成果が地域づくりへと還元される。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	60歳以上の町民
	手段・手法	年7～8回程度の講座の実施
	内容	・レクリエーション ・健康講話 ・視察学習 ・音楽、映画の鑑賞 など

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費		150		40		150	[報償費] 高齢者学級講師謝金 150 [需用費] 消耗品費 18 食糧費 18 [使用料及び賃借料] 講座用物品借上料 55
		需用費		15		0		36	
		使用料及び賃借料		64		44		55	
		事業費合計		229		84		241	
	人件費	常勤職員(延)	20 人日	627	20 人日	660	20 人日	631	
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
		人件費合計		627		660		631	
		総事業費		856		744		872	令和2年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		856		744		872		
	財源合計		856		744		872		
R元年度 実施内容		計7回の講座を実施。 第1回:開校式・レクリエーション、第2回:視察学習(帯広畜産大学、明治なほどファクトリー十勝)、 第3回:まちづくり講話・健康講話、第4回:映画鑑賞「サラリーマン忠臣蔵」、第5回:終活講話「自分らしい最後に向けて!」、 第6回:健康推進講話、第7回:詐欺被害防止講話・閉講式							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
講座の実施回数		実施回数が多いほど、対象者の 参加機会の増加に繋がる。		回	7 (ー)	7 (ー)	ー () ()		
					() ()	() ()	ー () ()		
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、対象者 に対する学習効果の増が期待 できる。		人	275 (ー)	277 (ー)	ー () ()		
					() ()	() ()	ー () ()		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
	【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 高齢者への学習機会の提供は社会教育事業であり、広尾町生涯学習推進計画<第2次計画>にも登録されている推進事業のひとつである。よって今後も行政で主体的に取り組んでいく必要がある。	

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	少年学習講座「おもいきり楽しみ隊」			事業開始年度		6
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	③ 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	1 学習参加者の拡大と広報広聴活動の充実
めざす目的成果	小学生を対象とした体験活動の提供などを続けることで、個人の人生が豊かで充実したものになると同時に、その成果が地域づくりへと還元される。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	小学生
	手段・手法	年7～8回程度の講座の実施
	内容	・ネイチャーゲーム、宿泊研修 ・おもしろ科学実験 ・制作活動 ・産業体験活動 など

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	25	15	25	[報償費] 少年学習講座講師謝金 25 [需用費] 消耗品費 9 賄材料費 30		
		旅費	20	0	0			
		需用費	0	8	39			
		事業費合計	45	23	64			
	人件費	常勤職員(延)	30 人日	941	30 人日	990	30 人日	946
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計	941	990	946			
		総事業費	986	1,013	1,010			令和2年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源	986	1,013	1,010				
	財源合計	986	1,013	1,010				

R元年度 実施内容	計7回の講座を実施。 第1回:自然とふれあおう!、第2回:わんぱく自然体験塾、第3回:おもしろ科学実験～力のふしぎ～、 第4回:外国の人とふれあおう、第5回:農家さん家で乳しぼり、 第6回:ご当地グルメに挑戦、第7回:白熱!室内雪合戦					
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
講座の実施回数	実施回数が多いほど、対象者の参加機会の増加に繋がる。	回	7 (—)	7 (—)	— (—)	年度 ()
			()	()	()	年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
参加人数(延べ)	参加人数が多いほど、対象者に対する学習効果の増が期待できる。	人	69 (—)	81 (—)	— (—)	年度 ()
			()	()	()	年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 少年期の学習機会や体験活動機会の提供は社会教育事業であり、広尾町生涯学習推進計画＜第2次計画＞にも掲載されている推進事業のひとつである。よって今後も行政で主体的に取り組んでいく必要がある。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	大人の文化講座			事業開始年度	H26	7
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
めざす目的成果	具体的な施策	1 成人教育への多様な学習機会の提供
	基本、仕事等で文化活動を行うことが制限される町民を中心に、文化活動に慣れ親しむ機会を提供し、全ての町民が充実した余暇を過ごすことができる環境を整える。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民(主に、仕事等で文化活動を行うことが制限される方)
	手段・手法	年2～3回の文化講座
	内容	・茶道 ・陶芸 ・絵画 ・三味線 など

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	35	5	60	[報償費] 大人の文化講座講師謝金 60 [需用費] 消耗品費 18		
		需用費	0	0	18			
		事業費合計	35	5	78			
	人件費	常勤職員(延)	5 人日	157	5 人日	165	5 人日	158
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計	157	165	158			
		総事業費	192	170	236	令和2年度財源内訳の積算		
	財源内訳	国道支出金						
地方債								
その他特定財源								
一般財源		192	170	236				
財源合計		192	170	236				
R元年度 実施内容		計1講座1回を実施。 第1回:和太鼓体験講座×1日 (※三味線体験講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、中止。)						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
講座の実施回数		実施回数が多いほど、対象者の 参加機会の増加に繋がる。		回	2 (ー)	1 (ー)	ー (ー)	年度 ()
					()	()	ー ()	年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
参加人数(延べ)		参加人数が多いほど、対象者 に対する学習効果の増が期待 できる。		人	19 (ー)	8 (ー)	ー (ー)	年度 ()
					()	()	ー ()	年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 高齢者学級や少年学習講座と同様に、ターゲット層をある程度分類することで年代に応じた質の高い体験学習の機会を提供できるものとする。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	趣味・教養学習講座「マイブラン」			事業開始年度		8
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	1 成人教育への多様な学習機会の提供
めざす目的成果	5人以上の仲間が集まり、自ら趣味や教養の講座を企画運営することで、幅広く学習機会の提供を図る	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民
	手段・手法	団体の企画する趣味教養講座の計画を審査し、講師派遣費用の一部補助を行う
	内容	レクダンス、エアロビダンス、木育体験講座、しめ飾り作成講座など、団体で企画・計画した講座の実施

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	40	30	180	[報償費] 講師謝金 180		
		事業費合計	40	30	180			
人件費	常勤職員(延)	2 人日	63	2 人日	66	2 人日	64	令和2年度財源内訳の積算
	会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		63	66	64			
	総事業費		103	96	244			
財源内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源		103	96	244			
	財源合計		103	96	244			

R元年度 実施内容	2講座2回開催。参加者述べ12人。 三味線とふれあおう、手作りしめ飾り講座					
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
			()	()	—	年度 ()
			()	()	—	年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値
講座の開催回数	開催回数が多いほど、自発的に学習に取り組む意欲向上に繋がったと考えられる。	回	6 (—)	2 (—)	— ()	年度 ()
参加人数(延べ)	参加人数が多いほど、学習効果がより多くの人に波及したと考えられる。	人	49 (—)	12 (—)	— ()	年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	○ 見直す余地がありすぐに実施 ● 見直す余地あるが時間が必要 ○ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☒ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
	【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 年々事業費を縮小しながら継続をしている。各講座とも参加者が多く、事業を廃止すれば自発的に活動しようとする意欲ある団体育成に弊害が生じる恐れがあるため、予算規模を検討しながら制度維持していくべきと考える。	

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額 ● 現状のまま ○ 減額		
		労働量	○ 拡大 ● 現状のまま ○ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額 ● 現状のまま ○ 減額		
		労働量	○ 拡大 ● 現状のまま ○ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	秋の芸術祭(展示発表部門・芸能発表部門)			事業開始年度		9
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☒ その他(広尾町文化協会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑥ すそ野を広げる芸術文化の振興
	具体的な施策	2 地域文化協会や各サークルの活性化と組織強化
めざす目的成果	町内における文化団体相互の親睦を図り、文化活動の振興助長に努め、広尾町の芸術文化に寄与する。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民
	手段・手法	各文化サークルによる展示発表会及び芸能発表会
	内容	展示発表会・・・書道・絵画・習字・写真・生け花・ヨーロッパ刺繍・俳句等 芸能発表会・・・よさこい・ジャズ・大正琴・バントワリング・和太鼓・フラダンス等

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円			平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	需用費	15		15		100		[需用費] 消耗品費等 100	
		事業費合計	15		15		100			
	人件費	常勤職員(延)	9 人日	283	9 人日	297	9 人日	284		
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0		
		人件費合計	283		297		284			
		総事業費	298		312		384		令和2年度財源内訳の積算	
財源内訳	国道支出金							[その他特定財源] 広尾町文化協会 100		
	地方債									
	その他特定財源	15		15		100				
	一般財源	283		297		284				
	財源合計	298		312		384				
R元年度 実施内容		展示発表(11/2～/4開催)・・・16団体329作品。来場者数271人。 芸能発表(11/17開催)・・・9団体33演目。来場者数150人。								
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	 R2(目標)		目標年度 最終目標値	
展示作品数		作品数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。		点	433 (ー)	329 (ー)	ー (ー)		年度 ()	
芸能発表演目数		演目数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。		演目	35 (ー)	33 (ー)	ー (ー)		年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	 R2(目標)		目標年度 最終目標値	
来場者数(展示発表)		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興につながることを期待できる。		人	257 (ー)	271 (ー)	ー (ー)		年度 ()	
来場者数(芸能発表)		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興につながることを期待できる。		人	165 (ー)	150 (ー)	ー (ー)		年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 広尾町文化協会の主催事業で、日頃の活動の成果を発表できるイベントは他に無い。毎年多数の来場者があり、その目的からも行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	豊似文化・音楽祭			事業開始年度		10
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(豊似文化協会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ		基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
		政策	2	生涯を学びゆとりを育む
		施策	⑥	すそ野を広げる芸術文化の振興
		具体的な施策	2	地域文化協会や各サークルの活性化と組織強化
めざす目的成果		町内における文化団体相互の親睦を図り、文化活動の振興助長に努め、広尾町の芸術文化に寄与する。		
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民		
	手段・手法	豊似地区住民による文化・音楽祭の開催		
	内容	絵画・書道などの作品展示、バンド演奏、アームレスリング大会など		

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	報償費		20		20		20	[報償費] 出演者謝金 20 [需用費] 消耗品費等 130
	需用費		130		130		130	
	事業費合計		150		150		150	
人件費	常勤職員(延)	人日	0	人日	0	人日	0	
	会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		0		0		0	
総事業費			150		150		150	令和2年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金							[その他特定財源] 豊似文化協会 150
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源		150		150		150	
財源合計			150		150		150	
R元年度実施内容		豊似文化・音楽祭(11/9開催)・・・作品展示者63人299作品。音楽祭出演者6団体54演目。来場者数136人。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
展示作品数		作品数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。	点	251 (—)	299 (—)	— (—)		年度 ()
芸能発表出演者数		出演者数が多いほど、来場者満足度が期待でき、文化活動の振興に繋がると考えられる。	人	74 (—)	54 (—)	— (—)		年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
来場者数		来場者数が多いほど、町の文化活動の振興につながることを期待できる。	人	207 (—)	136 (—)	— (—)		年度 ()
						— ()		年度 ()

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 豊似文化協会の主催事業で、日頃の活動の成果を発表できるイベントは他に無い。音調津文化協会、野塚文化協会が活動を休止している中であって、地域で主体的に運営している希少なイベントであり、行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	広尾町芸術鑑賞町民劇場			事業開始年度	S58	11
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(実行委員会主催)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑥ すそ野を広げる芸術文化の振興
	具体的な施策	1 芸術鑑賞機会の充実
めざす目的成果	町の芸術文化の向上を図るため、優れた芸術文化鑑賞の機会を町民に供し、その鑑賞を通して町民の大きな交流の場とし、町内の芸術文化団体の育成や発展を目指す。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民
	手段・手法	年1回の芸術鑑賞イベントの開催
	内容	音楽鑑賞、演劇鑑賞、落語、マジック、人形劇など

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費	報償費	0	1,500	600	[報償費] 公演料 600		
		需用費	79	0	185	[需用費] 印刷製本費等 185		
		役務費	0	0	15	[役務費] 各種手数料 15		
	事業費合計	79	1,500	800				
	人件費	常勤職員(延)	15 人日	471	5 人日	165	15 人日	473
会計年度任用職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0	
人件費合計			471		165		473	
総事業費			550		1,665		1,273	
財源内訳	国道支出金					[その他特定財源] 広尾町芸術鑑賞町民劇場実行委員会 500		
	地方債					入場料収入等 300		
	その他特定財源		12	1,500	800			
	一般財源		538	165	473			
	財源合計		550	1,665	1,273			
R元年度 実施内容		「春のエンタメ祭」(3/29開催予定)・・・※新型コロナウイルスの影響により、中止。令和2年度以降の開催に向けて調整を図る。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
						— 年度		
						— 年度		
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
来場者数		来場者数が多いほど、町の文化活動の発展につながることが期待できる。	人	373 (—)	— (—)	— (—) 年度		
						— 年度		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 普段は鑑賞機会の少ない質の高い芸術鑑賞を楽しむことができるイベントで、町民のニーズも高い。その目的からも、行政が継続して支援すべき事業である。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額	☒ 現状のまま	☐ 減額
		労働量	☐ 拡大	☒ 現状のまま	☐ 縮小
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	少年将棋教室			事業開始年度		12
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☐ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☒ 事業協力 ☒ その他(青少年健全育成推進協議会)					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	③ 青少年健全育成の充実
	具体的な施策	1 学習参加者の拡大と広報広聴活動の充実
めざす目的成果	親子で同じ趣味を通じ、親子の絆を深めあうほか、他校の児童生徒との交流を図る機会とする。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	町内の小中学生及びその保護者
	手段・手法	将棋同好会会員を講師とした将棋教室
	内容	将棋の対局による児童間、親子間の交流

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	報償費		5		0		5	[報償費] 講師謝金 5 [需用費] 参加記念品 20
	需用費		21		0		20	
	事業費合計		26		0		25	
人件費	常勤職員(延)	2 人日	63	人日	0	2 人日	64	令和2年度財源内訳の積算
	会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		63		0		64	
総事業費			89		0		89	
財源内訳	国道支出金							[その他特定財源] 広尾町青少年健全育成推進協議会 25
	地方債							
	その他特定財源		26		0		25	
	一般財源		63		0		64	
	財源合計		89		0		89	
R元年度実施内容	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止。							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値		
			()	()	()	()	年度	
			()	()	()	()	年度	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)	目標年度 最終目標値		
参加人数	参加人数が多いほど、児童間・親子間の交流の促進が期待できる。	人	16 (-)	0 (-)	- (-)	年度 ()		
			()	()	()	()	年度	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☐ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	○ 見直す余地がありすぐに実施 ○ 見直す余地あるが時間が必要 ● 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
	【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 広尾町青少年健全育成推進協議会の事業として開催しており、毎年一定以上の親子参加がある。社会教育的な視点からも、現状のまま支援を継続すべき事業と考える。	

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止		
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額	● 現状のまま	○ 減額
		労働量	○ 拡大	● 現状のまま	○ 縮小
今後の取組方針(改善点・変更点)					
主管者会議評価	事業の方向性		● 存続 ○ 縮小 ○ 統合 ○ 委託 ○ 移管 ○ 撤退 ○ 廃止		
			時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	○ 増額	● 現状のまま	○ 減額
		労働量	○ 拡大	● 現状のまま	○ 縮小
総合コメント					

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	はたちのつどい			事業開始年度		13
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ		基本目標	3	豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
		政策	2	生涯を学びゆとりを育む
		施策	②	自己実現をはかる社会教育の充実
		具体的な施策		
めざす目的成果		式典の場を設けることで、20歳の節目を迎え大人となった自覚と責任を認識する機会とする		
事業内容	対象 (誰を、何を)	20歳を迎える町民		
	手段・手法	対象者に案内を行い、記念式典を開催する		
	内容	記念式典及び記念品の贈呈、記念撮影の実施など		

3. 実施結果「DO(実施)」

		単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費		83		70		96		[報償費]	
		需用費		105		94		108		記念品費 96	
		役務費		14		11		14		[需用費]	
										消耗品費等 108	
										[役務費]	
										通信運搬費 14	
	事業費合計		202		175		218				
	人件費	常勤職員(延)		4人日	126	4人日	132	4人日	127		
		会計年度任用職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0		
		人件費合計		126		132		127			
総事業費		328		307		345		令和2年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		328		307		345				
	財源合計		328		307		345				
R元年度実施内容		はたちのつどい(R2.1.3開催)・・・参加者数:新成人51人、来賓25人									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値		
					()	()	—		年度		
					()	()	—		年度		
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値		
参加人数(新成人)		参加人数が多いほど、より多くの新成人に効果が波及すると考えられる。		人	59 (—)	51 (—)	—		年度		
					()	()	—		年度		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☒ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 成人式に相当するイベントであり、行政が主体となって行うイベントである。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	スポーツ教室			事業開始年度		14
担当課	社会教育課	担当係	社会教育係	担当者	須田 圭一	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心を育み文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	⑤ 町民皆スポーツの振興
	具体的な施策	1 健康を意識したスポーツの振興
めざす目的成果	スポーツ教室の開催により、運動に親しむ機会を提供し、体力向上や健康増進を促す	
事業内容	対象 (誰を、何を)	全ての町民
	手段・手法	教室への参加者を募り、外部講師による指導を行う
	内容	アクアエクササイズ教室、子どもスケート教室、インストラクター配置・派遣事業

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳			
コスト	事業費	報償費		1,396		397		498		[報償費] インストラクター謝金 498	
	事業費合計		1,396		397		498				
	人件費	常勤職員(延)		3人日 95		3人日 99		3人日 95			
		会計年度任用職員(延)		時間 0		時間 0		時間 0			
人件費合計		95		99		95					
総事業費		1,491		496		593		令和2年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金										
	地方債										
	その他特定財源										
	一般財源		1,491		496		593				
	財源合計		1,491		496		593				
R元年度実施内容		アクアエクササイズ教室・・・4日間、延べ35人参加 子どもスケート教室・・・申込者31名(雪不足によりリンクの造成ができなかったため、中止) インストラクター配置・派遣事業・・・インストラクターによる指導を受けた人数 延べ95人、 トレーニングルーム利用者 延べ2,179人(前年度1,412人)※3月は新型コロナの影響により、中止									
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)		R1実績 R1(目標)		目標年度 最終目標値		
					()		()		— 年度		
					()		()		— 年度		
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)		R1実績 R1(目標)		目標年度 最終目標値		
参加人数		参加人数が多いほど、町内のスポーツ振興に対する効果が期待できる。		人	208 (—)		130 (—)		— 年度		
					()		()		— 年度		

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☐ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☐ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地あるが時間が必要 ☒ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☐ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
	【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 各種スポーツ教室の開催は、広尾町生涯学習推進計画<第2次計画>の登載事業であり、今後も行政として継続的に運動に親しむ機会を提供すべきである。。	

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	クリスマスおたのしみ会				事業開始年度	H4	15
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子		
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5 図書館の整備
めざす目的成果	・サークル会員と参加者、サークル会員同士に交流が生まれる。 ・図書館サークルの活発な活動、研鑽の場。 ・おはなしへの興味を育み、絵本の貸出につなげる。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民
	手段・手法	・図書館サークル「らっこ座」による人形劇等の公演
	内容	・子どもを対象した文化面の催し物が本町では少ないため、人形劇等を生で観る機会を与えることを目的として会員たちが制作、公演を実施。また、会員相互の親睦と交流を図る。

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	事業費		20		20		20	
	事業費合計	20	20	20				
	人件費	常勤職員(延)	4 人日	126	3 人日	99	4 人日	127
会計年度任用職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0	
人件費合計		126	99	127				
総事業費		146	119	147	令和2年度財源内訳の積算			
財源内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源	146	119	147				
	財源合計	146	119	147				
R元年度実施内容		・人形劇、大型絵本、エプロンシアターなどを実施。来場者67名。子どもたちが人形劇を生で見る機会ができた。 ・おはなしを楽しむことで物語への興味が発達され、参加者親子が会場から児童書コーナーへ移動し、絵本の貸出に繋がった。						
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
参加者数	参加者が多いほど図書の貸出の増加が期待できる。	人	98 (80)	67 (80)	— (80)		R 2 年度 (80)	
			()	()	— ()		年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
読書の芽を育てる。	子どもたちの読書の芽を育てる。		()	()	— ()		R 2 年度 ()	
			()	()	— ()		年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☒ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☒ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 ボランティア団体が積極的に関わっているため、図書館職員が行う作業はポスター掲示や防災放送無線による周知の協力、当日の写真撮影程度であり、業務については簡素化されている。来場者数が年々減少傾向にあるため、ポスター掲示場所を増やす等の工夫の余地がある。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	にんぎょうげきのつどい			事業開始年度		16
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5 図書館の整備
めざす目的成果	・サークル会員と参加者、サークル会員同士に交流が生まれる。 ・図書館サークルの活発な活動、研鑽の場。 ・おはなしへの興味を育み、絵本の貸出につなげる。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民
	手段・手法	・図書館サークル「らっこ座」による人形劇等の公演
	内容	・子どもを対象した文化面の催し物が本町では少ないため、人形劇等を生で観る機会を与えることを目的として会員たちが制作、公演を実施。また、会員相互の親睦と交流を図る。

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	報償費		10		10		20	
		需用費							
		事業費合計		10		10		20	
	人件費	常勤職員(延)		3 人日	95	2 人日	66	2 人日	64
		会計年度任用職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計		95		66		64	
		総事業費		105		76		84	
							令和2年度財源内訳の積算		
財源内訳	国庫支出金								
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源		105		76		84		
	財源合計		105		76		84		
R元年度 実施内容		・大型絵本、人形劇、ボードビルなど実施。来場者23名。子どもたちが人形劇を生で見る機会ができた。							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
参加者数		参加者が多いほど図書の貸出 の増加が期待できる。		人	48 (48)	23 (40)	— (40)	R 2 年度 (40)	
					 ()	 ()	— ()	年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	目標年度 最終目標値		
読書の芽を育てる。		子どもたちの読書の芽を育て る。			 ()	 ()	— ()	年度 ()	
					 ()	 ()	— ()	年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☒ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☒ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】※担当課としての判定理由を記入する。 ボランティアが主体的に活動しているため、図書館職員はポスター・チラシや防災無線放送等による周知等、少ない業務量で実施することができている。参加者が減ってきている傾向にあり、ポスター掲示場所を増やす等の対策の余地がある。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				

イベント事業等の振り返りシート

1. 基本情報

事業名	絵本作家講演会			事業開始年度	H20	17
担当課	社会教育課	担当係	図書館係	担当者	三崎 奈美子	
実施方法	☒ 町が直接実施 ☐ 共催 ☐ 委託 ☐ 補助・助成 ☐ 事業協力 ☐ その他()					

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合計画(基本計画)上の位置づけ	基本目標	3 豊かな心をはぐくみ文化を高めるまちづくり
	政策	2 生涯を学びゆとりを育む
	施策	② 自己実現をはかる社会教育の充実
	具体的な施策	5 図書館の整備
めざす目的成果	絵本や絵本作家という職業、絵本を通じた親子の関わりなどに対する興味を深め、知的好奇心を育む場を提供する。	
事業内容	対象 (誰を、何を)	・町民
	手段・手法	・平成20年度より、絵本作家講演会を実施。令和元年度は夫婦ともに絵本作家として活躍している長谷川義史氏とおおきひろえ氏による講演会「夫婦シアター」を実施した。
	内容	・幼児～一般を対象とした講演会を実施。 ・絵本の読み聞かせやウクレレ演奏、おえかきライブの実演、創作についての話などを行った。 ・図書館内では、長谷川義史氏とおおきひろえ氏の絵本の展示・貸出を実施。

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳							
コスト	事業費	報償費		130		230		250		【需用費】 食糧費 : 41 消耗品費 : 2					
		需用費		11		24		43							
	事業費合計		141		254		293								
人件費	常勤職員(延)		8 人日		251		6 人日		198		8 人日		253		
	会計年度任用職員(延)		3 時間		4		3 時間		4		3 時間		4		
	人件費合計				255				202				257		
	総事業費				396				456				550		令和2年度財源内訳の積算
財源内訳	国道支出金														
	地方債														
	その他特定財源														
	一般財源				396				456				550		
	財源合計				396				456				550		
R元年度実施内容		・絵本作家長谷川義史氏、おおきひろえ氏による夫婦シアターを実施し、181名が来場した。 ・おえかきライブでは北海道のおいしいものを子どもたちにあげてもらい、長谷川義史氏の著書『大阪うまいものうた』のリズムに合わせて「ほっかいどうにはうまいもんがいっぱいあるんやで」とみんなで声をあげて即席の歌を楽しんだ。 ・絵本を通じて子どもとコミュニケーションを取る方法を知ることのできる講演会となった。													
活動指標 ※何をどのくらいやったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H30実績 H30(目標)		R1実績 R1(目標)		R2(目標)		目標年度 最終目標値			
参加者数		参加者が多いほど図書の貸出の増加が期待できる。		人		143 (180)		181 (180)		— (180)		年度 (180)			
						()		()		— ()		年度 ()			
成果指標 ※どのような効果があったかを把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位		H30実績 H30(目標)		R1実績 R1(目標)		R2(目標)		目標年度 最終目標値			
読書の芽を育てる。		子どもたちの読書の芽を育てる。				()		()		— ()		年度 ()			
						()		()		— ()		年度 ()			

4. 事業の分析「CHECK（評価）」

検討基準の項目チェック	※該当する項目は、すべてチェックすること。	
	☐ 社会情勢の変化等により、所期の事業(開催)目的を達成している。 ☒ 所期の事業(開催)目的を一部達成している。 ☐ 類似する事業等がある。 ☐ 類似目的の事業等がある。 ☐ 民間主催で類似した事業等が開催されている。 ☒ 行政が実施主体でなければならない。 ☐ 行政が実施主体でなくてもよい。又は、民間等に任せの方が効率的でサービスの向上が見込める。 ☐ 受け皿となり得る団体等がある。 ☐ 行政の手から離れることで、自主的な民間活動の活性化が期待できる。 ☐ 任意団体等の主催でありながら諸事情により事務等を町で行ってきたが、団体等が育成され、もはや単体で開催できる。 ☐ 事業等の対象者が限定的になっている。 ☐ 効果が不明となり、必要性が希薄となっている。 ☐ 町が関与する理由が希薄である。 ☐ 他のイベント事業等と比べて、人的・財政的な支援に厚遇(偏り)がみられ、公平な行政の観点から、不公平感がある。 ☐ 移管又は撤退が可能だが、補助金等を別途検討する必要がある。 ☐ その他()	
イベント事業等の見直しの余地(1次評価)	判定	☒ 見直す余地がありすぐに実施 ☐ 見直す余地があるが時間が必要 ☐ 見直す余地がない
	☐ 委託やボランティア団体等の活用などの事業手法の見直しの余地がある。 ☐ 事業費や人件費などのコストを圧縮する工夫の余地がある。 ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある。 ☐ 社会情勢やニーズの変化等により、サービスの対象・量・水準を見直す余地がある。 ☒ 成果を高める工夫の余地がある。 ☐ その他()	
【説明】 ※担当課としての判定理由を記入する。 ひろお保育園・豊似保育所の子どもたちにも、バス移動により講演会を聞いてもらっている。 令和元年度は知名度の高い絵本作家のため一般の親子の来場も多かったが、年度によって一般の親子の来場者に増減があり、ポスター掲示場所を増やすなどの工夫が必要。		

5. 今後の方向性「ACTION（改善・改革）」

政策プロ (2次評価)	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	今後の取組方針(改善点・変更点)				
主管者会議評価	事業の方向性		☒ 存続 ☐ 縮小 ☐ 統合 ☐ 委託 ☐ 移管 ☐ 撤退 ☐ 廃止 時期→ ☐ 今年度中 ☐ 来年度 ☐ 別途判断		
	投入資源の方向性	事業費	☐ 増額 ☒ 現状のまま ☐ 減額		
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小		
	総合コメント				